No.69

COMPASS

京滋慶友会

２０２３年　５月号

- 新役員からのご挨拶　１
- 香山　ひと美（法甲卒）　「感謝」　２
- Fabio　Salvagno（経済）　「匠」　５
- 森本　小規子（文Ⅲ）　「慶應通信入学に寄せて」　５
- 原　真織（文Ⅲ）　「学問のすゝめ」　６
- 富永　智美（法甲）　「自己紹介」　７
- 菱田　彩巴（文Ⅰ）　「慶應通信での目標」　７
- 村山　謙太（経済）　「成城石井のトリュフソース」　７
- 西川　英二（法甲）　「湖（うみ）その愛」　８
- 松林　貴子（文Ⅱ）　「京滋慶友会　講師派遣報告書」　９
- 徳元　泰孝（法甲）　「岡原正幸教授　２０２３年３月５日講演のまとめ」　９
- 編集後記　１１

新役員からのご挨拶

会長就任挨拶

今年度会長を仰せつかりました、文学部Ⅲ類の森井八恵子です。これまで京滋慶友会は存続の危機に陥ったこともありましたが、今日ほぼ毎年卒業生を輩出し新入会者を迎え、様々な活動ができることは、諸先輩方の繋いでいく思いに対する努力の賜物と深く感謝申し上げます。

学問は単に知識を増やすことではなく、福沢諭吉の「独立自尊」の精神である、「他に惑わされず、主体的に世の中の進むべき方向を考える力」こそ、生きるための真の「学問を学ぶ」事と言えるでしょう。

世界中がコロナ禍で混乱する状況の中、この「学問を学ぶ」という最高の贅沢を続けてこられたのは、やはり慶友会で共に学ぶ仲間の存在が大きかったと思えます。

これからもより一層活発な京滋慶友会となりますよう、微力ながら皆様のご協力のもと努力して参ります。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

文Ⅲ　　森井八恵子（会長）

私が慶應通信に入学すると同時に京滋慶友会に入会して早いもので４年目となりました。

入学当初は単位の取り方、レポートの書き方や提出方法、スクーリング科目の履修方法など全くわからない状態でしたが、今では、新入生の方々に説明できるようになったのも、当時の京滋慶友会の先輩の皆様方の丁寧なご説明のおかげだと感謝しております。

福沢先生が 150 年前に慶應義塾の精神として唱えられた「半学半教」。この精神に私自身も則り、微力ながら皆様方と学び合いを進められたらと思っております。宜しくお願い致します。

文Ⅰ　佐々木　雅生（副会長）

文章を読むということは、目を閉じて岩の表面を指でなぞるような一面がある、と時々思います。岩の表面のごつごつ感や、滑らかさなどの組み合わせは、様々なものが反応し合う結果として感じるもので、確固としたものでもありません。そうでありながら、今でも、その感覚に感動を覚えることがあります。このコンパスで、良い岩に出会うことが楽しみです。そして、卒業に向かって、山を登って行きましょう。

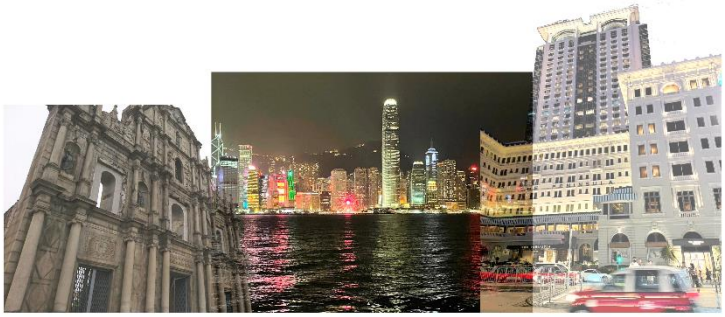
法甲　徳元　泰孝（副会長）

難解なテキストを読み進めるときの何とも言えない苦しみ！その内容を読み解いて、そういうことだったのかとシナプスが繋がった時の何とも言えない爽快感！この年齢になっても、そうやって学べることに感謝です。

文Ⅰ　永井　妙子（会計）

今年度、会計を担当させて頂きます、松林貴子と申します。21 年度文学部２類に学士入学しました。城、史跡、遺跡巡り、それに、海外国内旅行が、大好きです。京滋慶友会の皆様と会を盛り上げながら、楽しく学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

文Ⅱ　松林　貴子（会計）



感　謝

法学部甲類 2022 年度卒業

香山　ひと美

【慶應義塾での学び・卒業】

今春、法学部甲類を卒業いたしました。2018 年春に入学してから、卒論以外の必要単位取得には約３年、その後、約２年を卒業論文完成に費やしました（卒論：「夫婦同氏制」の憲法問題――選択的夫婦別姓の実現にむけての一考察――）。科目単位取得も卒論単位取得も、文章の作成に向かう時間は楽しみでしたけれども、積み上げていくそのプロセスは、常に不安と隣り合わせであったと振り返ります。「一単位も取れないままになるのではないか」というところ

から、私の慶應義塾での勉強は始まりました。

入学した年の７月は、台風で試験会場に行けず、2018 年 11 月から大阪キャンパスでの受験となりました。その前に、夏スクールで数科目受講しました。うち、原禎嗣（よしつぐ）先生の日本法制史は穏やかな授業で、最終日に設定されていた試験は、事前に、「問題を３問作るから、その中から１問選んで論述してください」というもので、持込み可でした。私は受講していて、1 問を何となく予想出来たので、テキストのほかに、唯一、持参していた薄い小冊子資料を持ち込みました。問題の一つは、まさに私が予想したもので、構成を考える時間も惜しんで、ひたすら書き続けました。予想以上に嬉しい評価でした。この時、初めて、『卒業まで何とかやっていけるかも』と思われました。年４回の試験日には、常に何かを受験していました。平日は終日仕事で、ほかに仲間たちとの音楽活動、受験勉強もやっている中、焦る気持ちもあって、多い時は５科目受験したと思います。落としたこともあるし、紆余曲折はありましたが、無事卒業に辿り着きました。

【受験の準備】

科目試験、課題レポートさえ、準備を万端にして臨むやり方もあれば、ある程度、概観を把握して、あとは、「とりあえず、書いて出そう」とか、「こんな問題が出たら、たぶん書ける」くらいの状態で受験するやり方もあります。特にテキスト科目は、せめて大事な部分は押さえてから望むのが、好ましいと思われます。ただ、課題レポートも早く合格したし、試しに受験してみよう、というのもアリだと思います。ピンポイントでタイミングがよければ、準備していなくても、答えられる科目もあったと思います。

【学費の支払は確実に】

慶應通信で学んでゆく経過の中で、要注意な事務面でのポイントは、学費が継続して引き落とし可能な口座か、ということです。私の友人は、学費が引落しできなくて、気付いたら除籍になっていた、と言っていました。彼女はその時点で 60 単位を取得しており、残念だったと思います。一度口座引落としができない場合に、何らかの警告文書が届くのかどうかについて、私は確認していません。検索した３つの他大学の通信教育部における学費は、私が義塾の卒業に要した５年間の合計額が、たった１年で飛んでしまう勢いです。義塾の学費は安く、スクーリングは楽しく、共に学ぶ受講生には優秀な方が多くおられます。学費引落し等につき、くれぐれもチェックください。諸方面において、私は慶應義塾で学べることをとても有難く思いながら、大学生生活を続けることができました。

【今後の展望】

学問を続けて、学ぶほどに、自分の未熟さ、至らなさを知らされます。これからもずっと、私は何らかの場所で学び続けるつもりです。元々、怠け者なので、自分に何かを課さないと、怠惰になるばかりなのです。勿体ないことですよね。この先、生きられるのは、今まで生きてきた３分の１程度の時間であると気づくとき、色んな無意味なことからは極力、関わりを逃れて、大事な方たちと、大事な話題について話し、言動し、お互いに無理・いやな想いをせず、自分と、関わってくださる方々の**「ときと心」**を大切にしながら、過ごしてゆきたいと考えています。

【感謝の二文字】

最後に、「感謝」の二文字について、大谷翔平さんの言葉を引用させていただきます。「感謝の『感』は、感じ取れる能力、『謝』は、行動で示す、ということ。『感謝する』ということは、状況を感じ取り、それを行動に示してゆくこと。」であり、「カバーリング」に通ずるものとのことです。以前、私が受講していた「司会者講習」においても、講師の先生は、「もし、披露宴等で誰かが失敗した時、そこを周囲の者たちでいかにカバーするか、問われるべきは、そこのみ」、と言われていました。

どこの世界でも、ミスや劣に注目して、他人の誹謗中傷等に、大事な時と心を費やす人は見受けられます。大谷さんの理想は、そんな世界の対極にある世界だと感じます。それは同時に、中村天風や稲盛和夫の目指した世界ともいえます。できるだけの皆様が、心を正しく持ち、ポジティブな人生を送れますようにと、私も願っております。

私は塾員として残りますので、京滋慶友会の皆様、今後とも、香山（こうやま）を、よろしくお願い申し上げます。有難うございました。

2023 年 4 月 27 日　投稿

追記

※　皆様、私の卒論発表の節は、有難うございました。拙い発表で恐縮でした。私の卒論のテーマは、基本的には、民法 750 条が憲法 13 条・14 条 1 項・24 条に違反しないとした、最高裁の判断はどうなのか、というものです。**その点、最高裁の 2015 年判決から 2021 年決定における裁判官の意見に見える変化を重点的に論述しています。**それを身近な問題として、男女、夫妻の本質的・実質的平等を考えるについて、皆様のご意見等をいただきました。いつかまた、もっとじっくり意見・感想が飛び交える機会を持てたらと思ったことでした。詳細については、よろしければ、同日、私の持参した小冊子をご高覧くださいませ。

なお、アンケートを実施する際には、オープン・クエッションとクローズド・クエッションを有効に活用した質問を考えることが大事と思います。私の卒論での引用統計は、政府筋のものがほとんどでした。一応、公用として公開されているので、便利ではあると思われます。

付録

我が国における氏の制度の変遷

徳川時代‥‥一般に，農民・町民には苗字＝氏の仕様は許されず。

明治 3 年 9 月 19 日**太政官布告**‥‥平民に氏の使用が許される。

明治 8 年 2 月 13 日**太政官布告**‥‥氏の使用が義務化される。※兵籍取調べの必要上，軍から要求されたものといわれる。

明治 9 年 3 月 17 日**太政官指令**‥‥妻の氏は「所生ノ氏」（実家の氏）を用いることとされる（夫婦別氏制）。※明治政府は妻の氏に関して実家の氏を名乗らせることとし，「夫婦別氏」を国民すべてに適用することとした。なお，上記指令にもかかわらず，妻が夫の氏を称することが慣習化していったといわれる。

明治 31 年民法（**旧法**）成立‥‥‥夫婦は，家を同じくすることにより，同じ氏を称することとされる（夫婦同氏制）。※旧民法は，「家」の制度を導入し，夫婦の氏について直接規定を置くのではなく，夫婦ともに「家」の氏を称することを通じて同氏になるという考え方を採用した。

昭和 22 年改正民法成立‥‥‥‥‥夫婦は，婚姻の際に定めるところに従い，夫又は妻の氏を称することとされる（夫婦同氏制）。※改姓民法は，旧民法以来の夫婦同氏制の原則を維持しつつ，男女平等の理念に沿って，夫婦は，その合意により，夫又は妻のいずれかの氏を称することができるとした。

〒100-8977　霞が関 1-1-1
法務省アクセスより

匠

経済　Fabio Salvagno

今回の写真はヴァイオリン工房で数年前に撮ったものです。
製造の工程の中の「一コマ」です。
板を細かく削って、ちょうどよい薄さにする作業です。

慶應通信入学に寄せて

文Ⅲ　森本　小規子

京滋慶友会の皆さん、初めまして。この度文学部第Ⅲ類に入学した森本小規子と申します。皆さんのお仲間に入れていただき、嬉しく思っています。

私は教員の仕事に携わっていますが、長年、人に教える立場であるのに、自分自身が新しい発想や柔軟な思考から遠のいているように感じ、自己研鑽のため、またもう一度頭を柔らかく謙虚に学ぶためにどうすればよいかと模索していました。そんな日々、慶應義塾大学に通信制があることを知りました。「半学半教」—「教えることは学ぶこと、学ぶことは教えることに通じる」とは慶應義塾の精神の一つですが、この言葉が私自身を後押ししてくれ、入学に至りました。

「なぜ慶應義塾なのか」という問いにお答えするならば、「学問ができる」の一語に尽きるように思います。科目等履修生だった昨年、限られた科目と夏のスクーリングのみでしたが、決して楽ではないスクーリング（とても楽しかったのですが…）、安易には合格しないレポート（噂には聞いていましたが…）を経験して、私のようについさぼろう

とする人間には、逆にこの厳しさが必要だと思いました。どの科目も、一筋縄ではいかない厳しい雰囲気を纏っていますが、私の方から仲良くする気持ちを持って取り組みたいと 1 年を過ごしました。限られた時間の中で、毎日少しでも勉強すること、諦めず課題に向かうこと…ほんの少しではありますが、この気持ちを抱き続けていることは進歩だと思い、自分を鼓舞しています。

私が学生だったずいぶん昔、大学生であること、「学問」に思い切り取り組めること、この二つのありがたさを真の意味で理解できていなかったように思います。人生二回目の貴重な学びの時間、得たことを日々教育現場で還元していこう、学ぶことを楽しもうという気持ちで、この春を迎えました。

慶友会の皆さんがそれぞれの環境の下で取り組んでいる姿を励みにし、また、いつも協力してくれる家族に感謝しながら、一歩ずつ歩んでいきたいと思います。

今後ともお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

学問のすゝめ

文Ⅲ　原　真織

去年の秋に我が家にやって来て初めて冬越しをした「雪の下（ユキノシタ）」の花茎が 4 月の中頃からグングンと伸びて、螺旋状に直径 5 ミリほどの蕾をたくさんつけました。どんなお花が咲くのかワクワクしながら、あえてネットリサーチするのを控えて、ぼんやりと蕾を眺めては想像を膨らませるのが最近の楽しみのひとつです。

さて、慶應通信で学び始めたきっかけはいろいろあります。兎にも角にも、文学部Ⅲ類の扉を開きましたが、気付くと哲学の講義ばかり好んで受講しております（笑）。人生においても多忙な日々が続いており、のんびりマイペースで学んでいこうと覚悟を決めておりましたので、もっぱらメディア授業専門。テキストは美しいまま積まれるばかりでした。

ところが今年の 4 月に、大きな転機が訪れました。それは、京滋慶友会との出逢いです。事の発端は、2021 年にオンラインで実施された夏季スクーリングで受講した社会学・岡原先生の最終講義が、京滋慶友会主催で開催されることを知り参加させていただいたこと。コロナ禍に突入してから、あれよあれよとオンライン化されていきましたので、ここでリアルな慶應の先生にお逢いする初めての機会を得ました。講義は 2 日間のスケジュールで組まれており、図々しくも 2 度の懇親会にも参加させていただいたのですが、福澤先生が提唱される人間交際に触れたと言うべきでしょうか。先輩方の快いアドバイスや励ましの数々が身に染みてうれしく感じられ、積極的に学びたいという意志がこころに芽生えたのです。

それから、昨日。テキスト課題のレポートを初めて書き上げました。新設科目でしたので、追加履修届の申請をする必要がありましたが、これから提出が叶いそうです。この達成感たるやいかんや！　圧巻の爽快感！　初めての壁を越えることができましたので、次からは、ドンドン行けるような心地さえしています。慶應通信で学ぶことの大きな魅力が、秀逸なテキストや選りすぐりの参考書籍にあることも実感した次第です。

2023 年度春季メディア授業で受講している「近代日本と福澤諭吉」にも夢中です。科目試験申請の存在を認識しておらず 2 度目の受講なのですが、さらにじっくり学べと福澤先生からのエールかもしれません。

入会したばかりの初心者ではございますが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

法甲　富永　智美

はじめまして
法学部甲類の富永智美です。
皆さまと共に勉強に励んでいきたいと思います。
よろしくお願い致します。

慶應通信での目標

文Ⅰ　菱田　彩巴

はじめまして、昨年秋に入学いたしました菱田と申します。文学部第 1 類(76 期生)に所属しております。私がこの度、慶應通信に入学するに至ったきっかけの一つは、親族や大切な人を亡くした若者の集いに参加したことでした。その集いで、より的確な助言や向き合い方を提案することで、気持ちの整理がつきやすくなると思いました。そのためには、専門的な心理学や社会学の視点が必要だと考え、このような人間科学を学べる慶應通信を選択するに至りました。また、的確な助言をするために、要点をまとめる力が付くレポート学習も効果的であると考えました。慶應通信での学習を通して以上のような知識と考える力を養い、ほんの僅かではありますが、集い場でのサポートができるようになることを、目標としております。卒業を目指して、皆様のお力をおかりしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

成城石井のトリュフソース

経済　村山　謙太

ネタバース合同会社の村山です。私の自己紹介は特に面白くないと思うのでこれくらいにして、今回は成城石井のトリュフソースを紹介したいと思います。

この商品は 400 円程度でありながら、一瞬で料理のランクを 1 つあげてくれます。おすすめの使い方は、オリーブの実にかけて食べることです。1 分でハイボールに合う絶品おつまみが完成します。また、カップラーメンにも絶妙に合います。普段ジャンクフードを食べない私でも、このソースがあればわざわざ買ってくることもあります。味変として常備するのも良いと思います。しかし、カレーだけは、あまり味が変化しないのでご注意ください。

２０２２年、夏季スクーリングにて

うみ
湖その愛

法甲　西川　栄二

京滋慶友会の皆様、初めまして。法学部甲類第77期春入学の西川栄二です。2023年4月の定例会から正式に入会させていただきました。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

今回徳元副会長の依頼により、『COMPASS』に寄稿させていただくことになりました。まずは、私の若かりし頃の思い出を語りながら自己紹介を書かせていただきます。

ところで、Compassといえば船、船といえば、ヨット、ヨットといえば光進丸、光進丸といえば加山雄三。
奇しくも私が、加山雄三大先輩と同じ慶應義塾大学法学部で学ぶことになるとは夢にも思っておりませんでした。
私は、20歳から32歳まで大学の同級生らと、琵琶湖でヨットに乗っておりました。大学を卒業してからは、コンピュータ販売会社に就職しましが、当時は、バブル崩壊前の世の中が浮ついていた時で、私も例にもれず、毎週土日と祝祭日には、決まってヨットの中で大いに飲み、星空を眺めて、加山雄三の歌をカラオケで歌いながら、セイリングやヨットレースを楽しんでおりました。琵琶湖を愛し、ヨットを愛して、正に青春を謳歌していた時に、仕事が激務であったことや、飲みすぎた？ことが祟ってか、大病を患い、1か月間入院しました。退院後もしばらくは療養中ということで、大好きなヨットにも乗ることができずに、大人しくしておりました。尊敬する加山雄三大先輩も、「若大将」と言われて持て囃された時もあれば、何度も挫折を味わい、そこから立ち上がってこられたと聞きます。私も苦難を乗り越え、世の中に貢献できる人間にならなければと思っていたところ、偶然医療従事者の募集記事を見つけて応募し、それから 36 年間ずっと病院勤務を続け、患者様や病院スタッフを支えてきて、定年を過ぎた現在も勤務しております。

そんな中、私が再び学び直そうと思った理由は、ここ2，3年、コロナによって世界経済も低迷し、人々が元気をなくしている中、これを機に、私を取り巻いている法律が、私にどのように関わっているのか、憲法、民法、刑法そして、特に解っているようで解っていない医事法や、自然科学、外国語も含めて学び直したいと思ったからです。現在、コロナ禍も終焉を迎え、大学でも対面授業が行われるようになってきましたが、まだまだ医療機関は気を抜くことのできない状況が続いております。病気やそれに対する医療は、今後も変化と進歩を続けることでしょう。それに伴い、医療に関する法律も変化と進歩をし続けることと思います。私は、そんな激動する世の中の動きや医療情勢について、論理的に捉えられるような知識を大学で学びたいと考えております。私が大学を卒業後、40年余り時が過ぎているので、卒業までかなり苦労を要すると思いますが、皆様に教えていただきながら、琵琶湖で若さを謳歌していた時のことを思い出し、仕事と学びを生きがいとして励んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

京滋慶友会　講師派遣報告書

文Ⅱ　松林　貴子

開催日時：2023 年 3 月 4－5 日
講師：慶応義塾大学文学部　岡原正幸教授
演題：「学びの喜びと生の喜び　最終講義として」

京滋慶友会では、2023 年 3 月 4－5 日に、慶應義塾大学文学部の岡原正幸教授を 2 日間にわたり、お招きして、有意義な講演を行っていただきました。大変、人気の岡原教授の講演を伺いたいと、遠くは、東京都や徳島県、広島県などからも、はるばる京都の会場まで駆けつけてくださった塾生や塾員の方もいらっしゃり、大変、賑やかな講演会となりました。

教授は、2 日間にわたり、人文社会学のお話やレポートや卒論の書き方等、とても、興味深いお話をいろいろと講演してくださいました。参加者からの質問なども活発に出され、とても、楽しく有意義な会となりました。また、大変、慶応通信生に対する愛が溢れるお話もしてくださり、感謝です。退職を迎えられる岡原教授ですが、思いがこみ上げる場面もあり、涙を滲ませながらのお話に感動もいたしました。また、岡原教授を囲んでのお食事会も、多くの方が参加してくださり、岡原教授から、楽しいお話を伺うことが出来ました。

東京から京都まで来てくださった岡原教授、本当に、2 日間お世話になりました。講演会に参加させていただいた参加者一同、感謝の気持ちで一杯です。これからも、どうぞ、お元気でお過ごしくださいませ。ありがとうございました。

岡原正幸教授　２０２３年３月５日講演のまとめ

法甲　徳元　泰孝

Art based research(ABR)とは、芸術的なプロセスを体系的に用いて、アート的な表現を研究の中に入れ込むことであると、岡原先生の動画※を見て、知りました。

ABR と呼べるほどのものではありませんが、試みとして、３月５日の岡原先生の講演のまとめを、架空の短い私小説の形で書いてみました。岡原先生の講演内容について、その経験を調べ、理解するためにこうした表現を用いるという形で、結果としての文章に、自分だけでなく、読む人の理解を促す側面をもいくらか加えることができれば、良い試みだったと、言えるかもしれません。

２０２１年秋、普通課程で慶應通信に入学した私は、京滋慶友会主催の、岡原正幸先生による講演会に出席した後、諸事情により、人里離れた山の中の古民家へと引っ越し、自給自足に近い生活を５年間過ごした。

毎日の生活に気を取られ、単位の取得もままならない日々が、いつ終わるとも知れず続いた。

春の或る日、新年度の塾生ガイドが届いたので、軍手を外してページを繰ると、在籍期間は１２年とあり、もう既に残りは半分に満たないことに、今更ながら気付いた。もう先延ばしにはできない、卒業に向けて動き出さなければならない、と意を決した私は、だがどうやって、という自問に導かれるように、箪笥の引き出しから一つの USB メモリを取り出した。

それは、かつて、岡原先生の講演の聴講時、持ち込んだ PC 上で、Word に打ったメモを保存したメモリであった。PC に挿して開いてみると、丸ゴシック字体で現れたのは、メモという言葉の通りの、筋のない、短文の羅列であった。

まず目が行ったのは、「**入学してすぐライフワークがある**」という文であり、それは、「**考えていきましょう**」という文の下にある。その文の上には「**入学してすぐ書きましょう**」とあるから、これは卒論のことを指しているのだろう。それらの近くにメモされていた、「**それなりのものが求められる**」、「**かなりのものを要求される**」とは、卒論の内容のことを指しているようだ。

では実際、どんな内容で書けば良いのだろう、とページをスクロールしながら見ていると、「**蔵から資料が見つかって、とか、そんな人はなんの問題もないが、そうでない人は、自分の関心のあることを**」と書いてある。

はたと、今住んでいるこの古民家に蔵があったことを思い出した私は、裏庭に出て、立ち並べていた薪（まき）を蔵の入口からどかすと、懐中電灯を手に、藁の匂いの立ちこめる蔵の中へと踏み入った。

思い返せば、これまで私は、「**日々気になることをメモ**」してこなかった。「**一日二つ三つでも、自分が気になることをメモし続ければ、半年でも、相当な数の見出し、フレーズがある。半年かけて、自分の言葉にする**」ようなことをしなかった。そんな自分が急に卒論を書き出すためには、この蔵の中から何らかの資料が見つかる、というイベントがあれば良いのだ。そう思いながら、鼠の足跡繁き山積みの袋や藁を引っくり返していたが、やがて自分の浅はかさに思い至り、肩を落として PC の前に戻った。

今、私が蔵の中から資料を見つけたとして、それが私にとって関心があるかどうかは、これから読む新聞の記事と、どれだけ違いがあるのだろう。この方法は、関心が本来ないものを、関心を持っているかのように、自分自身をミスリードする可能性がある。岡原先生が言われていたのは、自身と関わりのあるような資料の場合なのだろう。卒論の内容をこのように決めるべきではないと思い、体を洗って、再び講演メモを開いた。

「**論文を書くのは面倒　ある型で書くということで**」という文が目に留まった。さっきの行動で疲れたために、「**面倒**」という言葉に着目したのかもしれない。

その近くにあった、「**今日の中京区の天気は、曇り、それが普通。でも、論文では、８０人の８割が曇りだと言ったとかそういうことを、白書だとかを使って言う。それが面倒。岡原先生が曇りって言ってほしいからとか。なぜそのような主張ができるのかという裏付けがいる。証拠をあげる。でもそれで検証することができる。調べることができる。**」という文は、卒論の基礎的な話なのだろう。

一方、「**心理学なら心理学の形を覚える、社会学なら社会学の形を覚える。大学では形式を教えていると思っている。主張を最初から出すのではない。学問では学問の形でやって下さいということ**」、ここは卒論だけでなく、大学での教育全般に関わる基礎的なことを指しているようだ。

何気ない言葉のようだが、よく考えてみると、私は果たして、形を覚えただろうか、という疑問が浮かんだ。それは多分、覚えたか、覚えていないかという二者択一なことではなく、少しずつでも、覚えていくということなのだろう、それ以上のことは、覚えていけば、追々分かるだろう、と、少なからず楽観的に考えをまとめた私は、気分を切り替えようと、障子を開け放った。野草の香りが芳しい。何にしても、卒業するために、前に進んで行くことが肝要だ。まずは意を決することだ。そうと決まれば、今年は久し振りにレポートを送り、山から下りて、科目試験を受けに行こう。

スクーリングに参加しよう。そして、卒論のアイデアを煮詰めていこう。意気を高めつつ、そのためにはまず、kcc-channel で現状を把握しなければと、再び PC の前に腰を下ろし、ディスプレイ右上の×に向かってポインタを移動させようとした時、「**寝そべって出てくる意見は違う**」という文を見て、手が止まった。寝床で横になれば、今の決意は変わるだろうか？　問いながら、時計を見上げた。

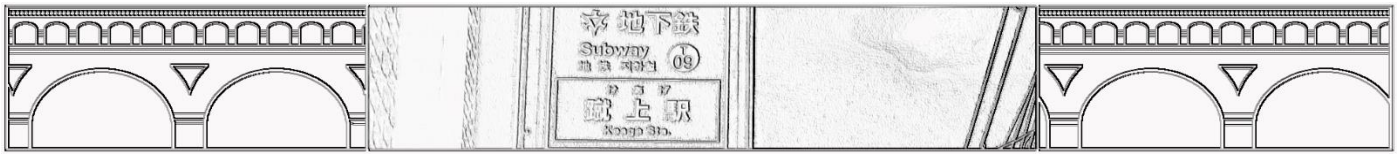
私は立ち上がり、外に出て、日暮れる前にすべきことに取りかかった。あの言葉は、「**三田の家**」の話のどこかで、「**四角形の部屋の中に座りながらでは出てこない**」アイデアや主張のようなものを指していたはずだ。怠け心を諫める意図ではない。怠けるといえば、私はこの５年、暮らしの維持に努めて、単位取得を疎かにしていた。これは、怠けていた、という言葉にはそぐわない。怠けている、と言うには、怠惰な時間を過ごすことを要するからだ。では、怠惰な時間と、そうでない時間を分ける基準は、どこにあるのか。例えば、療養と怠惰をどう分けるのか。もし仮に、「**寝そべって出てくる意見**」が傾向を帯びるとしたら、それは必ず怠惰な傾向となるだろうか。

これを卒論の糸口にできるだろうか？　その時、一羽のひよどりが、私を罵るように、激切な鳴き声を上げながら、空を斜かいに飛び去った。

「(太字)」は、岡原先生の講演内容です。

※（動画）https://www.youtube.com/watch?v=iUMb2RGcKdk

Studiopass「day1 okahara」



編集後記

香山さん、ご卒業、誠におめでとうございます。晴れやかなお姿、そのお話、大変、励みとなりました。そして、卒論発表会では、制度の問題点や、実際、それに関係して何が起きているかということについて、示唆に富むご説明をして下さり、ありがとうございました。これからも京滋慶友会に、ご助力を賜ることができれば、幸いです。

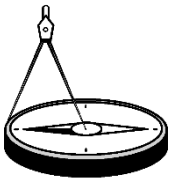
新年度となりました。今や、科目試験は対面に戻り、街には観光客が以前のように見られるようになりました。２０１９年１２月から約３年半。いつかもとに戻る、と遠くに見えた日常が、戻りつつあります。

今号より、このコンパスが、一般公開されることになりました。通信課程での勉学の進め方について、そして、慶友会の活動について、より良い方策を立てていきましょう。

COMPASS　No.69　２０２３年５月号

発行　京滋慶友会

編集部
徳元　泰孝
松林　貴子



無断での転載・複製を禁じます。All rights reserved.